

カラー・ピラミッド・テストの研究 (5)

—好嫌ピラミッドの組み合わせによる色彩反応解釈仮説の検討—

The Study of the Color Pyramid Test (5):

Testing Diagnostic Hypotheses on Color Response Using a Combination of Like and Dislike Pyramids

宗内 敦 宗内美映子
Atsushi MUNEUCHI, Mieko MUNEUCHI

I. 問題と目的

Color Pyramid Test (以下、CPTと略称)の分析カテゴリーには、色彩反応(色彩形式)、形態反応(形態形式)、および色彩の反応継列(経過形式)の3つがあり、就中、色彩反応は、一般的な色彩心理に対する興味も重なって強い関心を集め、CPTマニュアル⁽²⁾⁽¹⁾における色彩解釈(例えば、赤色は反応性や行動性に関与)は、CPTの分野外でもしばしば引用されている。しかし、われわれのCPT上の臨床経験では、赤色をより好みあるいは選択するなら活動性が高いといったシンプルな直線的関係はなく、色彩と性格・情動特性との関連は、好嫌二つの条件下のピラミッド(好ピラミッド:以下、好Pと略称、嫌ピラミッド:以下嫌Pと略称)に対する反応の組み合わせ、即ち、各色彩反応毎に、中間的選択を除き、それぞれの高低選択をもって2次元(好P-嫌P)的に組み合わせた関係性(具体的には、好P高-嫌P低、好P高-嫌P高、好P低-嫌P低、好P低-嫌P高の4群)の中で明らかになる。好P・嫌Pを組み合わせることは、意識的・顕在的レベル(好P)と無意識的・潜在的レベル(嫌P)⁽⁴⁾⁽³⁾での反応を一体として視ることを意味しているが、このように為して初めて、CPTは臨床的にも有意義な投影法検査となる⁽⁵⁾。

われわれはこれに関して、すでに下記のごとき臨床診断仮説をもち、これによってCPT反応を解釈し、診断し、その臨床的妥当性も認めてきた。そこで、本研究では、さらに角度を変えて、統計的にその妥当性を確かめることにした。即ち、本研究は、「好嫌ピラミッドの色彩反応を組み合わせることによって、色彩選択行動と性格・情動特性との関連が明かされる」という臨床的仮説を統計的・実証的に検討するものである。

表1 色彩形式・好P×嫌P解釈仮説 (宗内 敦, 2000)⁽⁶⁾

好P \ 嫌P	嫌P・低	嫌P・高
好P・高	その色彩によって示唆される感情・欲求・行動・特性などが、内的に抑えられることなく顕在化し、その個人を特徴づけている。	その色彩によって示唆される感情・欲求・行動・特性などが個人の内部で意識的、無意識的に抑えられ、不安・緊張・葛藤が生じている。
好P・低	その色彩によって示唆される感情・欲求・行動・特性などが、体質的に存在していない。	その色彩によって示唆される感情・欲求・行動・特性などが意識的、無意識的に抑えられているが、不安や緊張はない。反対傾性がそのまま個人を特徴づけている。

II. 方法

(1) 使用検査

- 1) Y G 性格検査
- 2) C P T

(2) 被験者

山梨県下の T 大学の学生 (18歳~23歳) 440名

- 1) 男子: 163名
- 2) 女子: 277名

(3) 実施方法

- 1) Y G は集団検査で施行
- 2) C P T は個別検査で施行

(4) 実施期間

平成 5 年 4 月~平成 9 年 3 月

(5) 結果の整理

1) Y G

12 尺度の素点を 5 段階値に変換後、因子分析 (バリマックス回転) を行い、2 因子を抽出。第 1 因子 (F 1) は D・N・O・C・I・Co・T の 7 尺度、第 2 因子 (F 2) は A・R・S・Ag・G の 5 尺度から成る。次いで、この 2 因子について、被験者毎にその因子得点を算出。

Y G 性格検査から 2 因子を抽出したのは、Y G 性格検査が情動性と活動性に関わる因子構造をもっていることが広く知られ、また C P T がパーソナリティの情動構造、とりわけ情動性・反応性・行動性を検出・査定することを特徴とする投影法性格検査であるため、Y G 性格検査 (F 1・F 2) が C P T の妥当性を検討するための適切な併存的検査であると見込まれるからである。

2) C P T

色彩形式各次元の基礎統計資料は付表 1 である。

色彩反応は、素点段階で 24 色相 (hue) を 10 色彩 (color) にまとめ、それを 9 段階 (スタイン) 値に変換。また、各色彩反応毎に、好嫌ピラミッド別に低位 1 段階 (4%)・2 段階 (7%)・3 段階 (12%) の合計 23% を低選択群、高位 7 段階 (4%)・8 段階 (7%)・9 段階 (12%) の合計 23% を高選択群とし、その好嫌 2 要因を表 2 のようにクロスさせて、以下の 4 群を抽出。

表 2 クロス表

要因 A \ 要因 B	嫌 P 低	嫌 P 高
好 P 高	①群	②群
好 P 低	③群	④群

①群 (好 P 高-嫌 P 低) ②群 (好 P 高-嫌 P 高)

③群 (好 P 低-嫌 P 低) ④群 (好 P 低-嫌 P 高)

ついでに述べる、好 P・嫌 P 別の 10 色彩選択順位は

<好 P>

男子: ①緑 ②青 ③赤 ④橙 ⑤黄 ⑥紫 ⑦黒 ⑧白 ⑨茶 ⑩灰

女子: ①青 ②緑 ③赤 ④橙 ⑤黄 ⑥紫 ⑦白 ⑧茶 ⑨黒 ⑩灰

<嫌 P>

男子: ①赤 ②紫 ③黒 ④緑 ⑤青 ⑥茶 ⑦灰 ⑧橙 ⑨黄 ⑩白

女子: ①赤 ②緑 ③紫 ④黒 ⑤茶 ⑥青 ⑦橙 ⑧黄 ⑨灰 ⑩白

これらの順位結果を標準データ（宗内,1983）と比較してみると、素点上は多少の変動はあるものの、順位は全く同一である。これによって、CPTにおける色彩の選択傾向は、経年しても、標準データを求めた頃と本研究を行った近年との間にほとんど変化がないことが知られ、敷衍すれば、人の色彩選択行動には極めて強い安定的な傾向がある、と言い得よう。

Ⅲ. 結果と考察

(1) YG

表3がバリマックス回転後の因子分析結果である。各6個の構成尺度の内容を分析して、第1因子（F1）を情動性因子、第2因子（F2）を活動性因子と命名。第1因子<情動性因子>はその因子得点が高いほど緊張感が高く、情動不安定。第2因子<活動性因子>は因子得点が高いほど活動性や反応性が高い。

なお、YGに関するさまざまな記述や研究において、YGの臨床各尺度はYG質問紙検査表内の検査プロフィール上の上半分の項目（D・C・I・N・O・Co）と下半分の項目（Ag・G・R・T・A・S）の二つの因子構造に分かれるとするものが多いが、本研究においては、T尺度が移行して第一因子に含まれている。因みに述べれば、これまでのCPT研究に際して併存的テストとしてしばしば使用してきたYG性格検査は、被験者が異なっても、そのすべてにわたって常に同様の結果を示している。

表3 YG・因子分析結果

###	No.変数	F 1	F 2	共通性
1	1 D	0.771	-0.237	0.651
2	4 N	0.753	-0.262	0.636
3	5 O	0.739	0.021	0.546
4	2 C	0.728	0.165	0.557
5	3 I	0.644	-0.360	0.544
6	6 Co	0.638	0.032	0.408
7	10 T	-0.524	0.186	0.310
8	11 A	-0.305	0.722	0.614
9	9 R	0.109	0.717	0.526
10	12 S	-0.341	0.716	0.629
11	7 Ag	0.359	0.674	0.584
12	8 G	-0.275	0.648	0.495
	固有値	3.761	2.738	6.499
	寄与率	31.34%	22.82%	54.16%

(2) CPT-YGの関係性

1) ピアソンの偏差積率相関

CPTのスタナイン得点とYGの因子得点を用いて、好嫌ピラミッド毎に、CPT色彩形式（14尺度）とYG2因子との偏差積率相関係数を求めたものが、表4ならびに付表2である。これはCPTの色彩選択行動とYG臨床尺度との間の直線的な関係の有無を見るためである。しかし、色彩形式とYG2因子との間には、好Pで茶とF2、嫌Pで紫とF1の僅か2個（2対）に有意な相関が見られるだけであり（表4）、さらに、2因子（F1・F2）を構成する下位尺度としてのYG全12尺度とCPT色彩形式との相関関係（付表2）を見ても、全般に相関係数の数値は低く、統計的に有意なものも336個のうち19個にすぎず、その値

表4 CPT-YG・相関表

	F 1	F 2		F 1	F 2
好 p 赤	0.03	0.08	嫌 p 赤	-0.05	-0.02
好 p 橙	-0.03	-0.07	嫌 p 橙	-0.01	-0.04
好 p 黄	-0.06	-0.01	嫌 p 黄	0.01	0.00
好 p 緑	-0.06	-0.05	嫌 p 緑	0.00	-0.03
好 p 青	-0.08	0.01	嫌 p 青	-0.01	-0.01
好 p 紫	0.03	-0.04	嫌 p 紫	-0.10*	0.05
好 p 茶	0.05	-0.11*	嫌 p 茶	-0.07	-0.03
好 p 白	-0.01	0.01	嫌 p 白	0.05	-0.04
好 p 灰	0.02	0.01	嫌 p 灰	0.07	0.02
好 p 黒	0.05	-0.02	嫌 p 黒	-0.01	0.03
好 Nsyn	-0.08	0.05	嫌 Nsyn	-0.00	-0.03
好 Ssyn	-0.00	0.05	嫌 Ssyn	-0.03	-0.04
好 Isyn	-0.08	-0.02	嫌 Isyn	-0.05	-0.03
好 Asyn	0.07	0.01	嫌 Asyn	0.08	0.03

も -.16~.12 と極めて低い。これらの結果は、冒頭に述べたように、色彩反応と YG 性格因子との間には一次方程式的な直線的関係がほとんど見られないことを示唆している。また、有意な相関関係を示す係数は、ほとんど好 P に関しており (18個)、嫌 P では4個にすぎない。この結果からは、嫌 P における診断上の効用を見出すことも難しい。

2) CPT分散分析

「好嫌ピラミッドの色彩反応を組み合わせることで色彩選択行動と性格・情動特性との関連が明かされる」という仮説を検証するため、F1・F2におけるCPT14尺度毎の2要因分散分析(完全無作為法)を行った(A要因=好P, B要因=嫌P:それぞれ、高選択と低選択の2水準。表2を参照)。表5はその平均値(因子得点)と分散分析結果のF値の検定結果を示したものである

表5 CTP・2要因分散分析(完全無作為法)

A \ B	F 1			色彩形式	F 2		
	嫌 p 低	嫌 p 高	F 値		嫌 p 低	嫌 p 高	F 値
好 p 高	0.21	0.15	ns	赤	0.34	0.23	A*
好 p 低	0.09	0.03			-0.27	-0.06	
好 p 高	-0.13	-0.10	ns	橙	-0.28	0.25	A+ AB**
好 p 低	0.10	0.08			0.48	0.11	
好 p 高	-0.18	-0.12	A*	黄	0.09	0.32	ns
好 p 低	0.36	0.19			0.37	0.12	
好 p 高	0.06	-0.11	ns	緑	0.25	0.13	ns
好 p 低	0.19	0.12			0.34	0.16	
好 p 高	0.29	-0.35	B+	青	0.19	0.19	ns
好 p 低	0.18	0.02			0.22	0.07	
好 p 高	0.13	-0.13	ns	紫	0.08	-0.14	ns
好 p 低	-0.04	-0.11			0.18	0.00	
好 p 高	0.12	-0.29	ns	茶	-0.14	-0.07	A*
好 p 低	0.23	0.06			0.55	0.29	
好 p 高	-0.16	0.43	ns	白	-0.01	0.41	ns
好 p 低	0.06	-0.07			0.06	0.11	
好 p 高	0.14	-0.23	AB*	灰	-0.01	-0.57	ns
好 p 低	-0.33	0.18			-0.02	0.04	
好 p 高	0.29	0.03	ns	黒	0.06	0.05	ns
好 p 低	-0.15	-0.04			0.10	0.04	
好 p 高	-0.13	0.19	ns	Nsyn	0.47	0.12	ns
好 p 低	0.04	0.07			-0.11	0.21	
好 p 高	0.01	-0.12	ns	Ssyn	0.26	0.55	ns
好 p 低	0.15	0.04			0.09	0.01	
好 p 高	-0.20	-0.17	ns	Isyn	0.13	0.09	ns
好 p 低	0.02	0.10			0.15	0.06	
好 p 高	0.09	0.49	A*	Asyn	-0.05	0.18	ns
好 p 低	-0.24	-0.21			-0.02	-0.11	

(有意水準 + p<.10 * p<.05 ** p<.01)

用、F2に関して赤、茶でA要因に主効果、橙で交互作用が認められ、さらに10%水準ながらF1青でB要因、F2橙でA要因に主効果がある。これらにより、黄・青・灰・Asynが情動性次元(F1)に、赤・橙・茶は活動性次元(F2)に関係していることが分かる。

これらの結果に基づき、被験者の反応が好P・嫌Pともに高選択群あるいは低選択群に属していることを前提にCPTの色彩反応の解釈仮説を立てれば、情動不安定性の指標として黄の好P低、灰の好P高・嫌P低、好P低・嫌P高、Asynの好P高が挙げられ、活動性の指標としては赤の好P高、橙の好P低・嫌P低、好P高・嫌P高、茶の好P高が挙げられる。ここでさらに進めて、例えば、活動性の指標としての赤を見ると、赤の好P高は

嫌P低、嫌P高のどちらを伴った場合も活動性の指標たり得るが、表1に従ってこれを解釈すれば、前者(嫌P低)は自然体としての被験者の活動性、後者(嫌P高)は心的葛藤からくる活動性、さらにはまた、前者は意識的レベルあるいは顕在的レベルの、後者は無意識レベルあるいは抑圧的レベルの活動性といった解釈が可能になる。

このように、好嫌両ピラミッドの高低選択を組み合わせて行う解釈技法は、YG検査の2因子(F1・F2)との関係性に限ってみても、単純に好P・嫌PごとにCPTとYGとの相関関係を見る場合に比べ、比較にならないほどの情報を与える。さらに、CPT各色彩反応とYG各臨床尺度との相関関係を求めた場合(附表2)と同じように、ここでもYG各臨床尺度ごとに好嫌ピラミッドの高低組み合わせ群との関係性(分散分析)を見れば、それはいっそう明瞭になる。下記がその一覧であるが、これによって、CPT各色彩反応はたくさんのYG臨床尺度と多彩な関係性をもち、情動性や行動性の各次元に対して多彩な診断能力を有していることが示唆される。

表中、括弧内は分散分析における要因内あるいは要因間F値の有意性である。AはA(好P)要因、BはB(嫌P)要因、ABはAB両要因の交互作用を示している。

赤:	Ag (A+) · G (AB**) · T (B*) · S (AB+)
	F2 (A*)
橙:	C (A+) · Ag (A*) · G (AB+) · R (A+, AB*) · A (AB+)
	F2 (A+, AB**)
黄:	C (A+) · I (A+) · O (A+) · Ag (AB+) · T (A+)
	F1 (A*)
緑:	なし
青:	C (B*) · N (B+) · Co (A*)
	F1 (B+)
紫:	なし
茶:	Ag (A+) · G (A**)
	F2 (A*)
白:	C (A+) · O (B+, AB+)
灰:	O (AB*) · Co (AB*) · Ag (AB*) · A (B+)
	F1 (AB*)
黒:	D (A**, AB+) · Co (A*) · R (A+) · T (A*)
Nsyn:	I (AB+) · O (A+) · G (AB+) · R (A+)
Ssyn:	G (A+) · A (A+) · S (A+)
Isyn:	Co (A*) · A (AB+)
Asyn:	D (A*) · C (A**)
	F1 (A*)

(有意水準 + P<.10 * P<.05 ** P<.01 *** P<.001)

以上、これらの結果から、本研究仮説、即ち、好嫌ピラミッドの組み合わせによる色彩反応解釈仮説が十分成り立ち得るものとして検証された。

IV. 今後の課題

好嫌両ピラミッドの反応を組み合わせで行う色彩反応解釈仮説の妥当性が検証された。が、この仮説をさらに有効な臨床的技法として用いるためには、もう一段の検討が必要である。

一つは、併存的妥当性を検討する際の外的基準である。

YG性格検査が情動性と活動性の2次元に関与する因子構造を持っていることはよく知られている。そこで本研究では、CPTの色彩尺度となにがし適合すると考えこれを利用したが、YGの臨床尺度によって測定される性格次元はCPTが測定しうる情動次元と必ずしも適合しているわけではない。好嫌ピラミッドの組み合わせによる解釈仮説の妥当性をよりいっそう高めるためには、このような試行錯誤的な選択ではなく、深い洞察をもって、各色彩が固有に関与すると思われる性格・情動次元（例えば茶に対応する自我の強さ、灰・黒に対応する抑圧・防衛機制など）を測定しうる外的規準を数多く集めて、同様の研究を進めていくことが必要である。

二つは、表1における好P×嫌P解釈仮説の整備である。

表は、好P・嫌Pそれぞれに対する仮説(4)(5)をもとに作成されたものであるが、まだ一般的、抽象的にすぎる嫌いがある。赤に始まる10色彩、さらにNsynほかの4色彩症候群、それらに対する選択行動が実際にいかなるパーソナリティ側面とかかわっているのか、まだ十分には知られていない。それ故、上に挙げた研究作業を進めながら、それらを明かし、より具体的な各色彩・色彩症候群別の固有な「好P×嫌P解釈仮説」表を作成し、さらにそれを検証してゆく作業が必要である。

このようにして、色彩形式の各反応の持つ意味が明らかになってくれば、カラー・ピラミッド・テストは、パーソナリティにおける意識・無意識の両次元に同時に迫る、臨床的に極めて有効な投影法検査として用いられることになるだろう。

追記：なお、本研究の一部は、日本教育心理学会第47回総会(2005)において、発表されている。

【引用文献】

- (1) Heiss,R. & Halder,P. (1975) Der Farbpyramidentest. Bern, Huber
- (2) Shaie,K.W. & Heiss,R.(1964) Color and Personality. Bern, Huber
- (3) 生武崇・井上正明(1997)「カラー・ピラミッド・テストによる性格診断の研究(2)―嫌いなピラミッドが無意識世界を測定でき得るか?―」福岡教育大学・心理教育相談研究第2巻 1-8
- (4) 宗内 敦・宗内美映子(1982)「色彩ピラミッドテスト(CPT)の新しい解釈仮説―Hässlichen Pyramidenの解釈とその応用―」都留文科大学教育心理学研究紀要 2, 9-16
- (5) 宗内 敦(1992)「カラー・ピラミッド・テスト『臨床心理学体系⑥：人格の理解』

(6) 宗内 敦 (2000) 「カラー・ピラミッド・テスト研修会資料」 図書文化

【参考文献】

- (1) 宗内 敦 (1983a) 「カラー・ピラミッド・テストの研究 (1) —目的・標準データ—」『都留文科大学研究紀要, 第19集』30-51.
- (2) 宗内 敦 (1983b) 「カラー・ピラミッド・テストの研究 (2) —歴史・構成・特徴—」『都留文科大学教育心理学研究紀要』第3号, 1-21.
- (3) 宗内 敦 (1988) 「カラー・ピラミッド・テストの研究 (3) —色彩形式標準データの解説・標準データ②—」『都留文科大学教育心理学研究紀要』第7号, 1-21.
- (4) 宗内 敦 (1989) 「カラー・ピラミッド・テストの研究 (4) —形態形式標準データの解説・標準データ③—」『都留文科大学教育心理学研究紀要』第8号, 1-17.
- (5) 宗内 敦 (2005) 「カラー・ピラミッド・テストにおける色彩反応の解釈技法の検討」『日本教育心理学会第47回総会発表論文集』557.

付表1 CPT・基礎統計 (平均・標準偏差)

[A・男]

		最小値	最大値	範囲	平均	標準偏差	ケース
1	好 p 赤	0.00	21.00	21.00	5.53	4.19	163
2	好 p 橙	0.00	25.00	25.00	4.87	3.95	163
3	好 p 黄	0.00	19.00	19.00	4.04	3.43	163
4	好 p 緑	0.00	27.00	27.00	9.76	5.69	163
5	好 p 青	0.00	30.00	30.00	9.56	6.06	163
6	好 p 紫	0.00	24.00	24.00	3.05	3.87	163
7	好 p 茶	0.00	15.00	15.00	1.87	3.17	163
8	好 p 白	0.00	24.00	24.00	2.59	3.82	163
9	好 p 灰	0.00	15.00	15.00	1.33	2.67	163
10	好 p 黒	0.00	16.00	16.00	2.55	3.76	163
11	好 Nsyn	0.00	38.00	38.00	24.85	7.71	163
12	好 Ssyn	0.00	40.00	40.00	14.43	7.00	163
13	好 Isyn	0.00	41.00	41.00	22.37	7.87	163
14	好 Asyn	0.00	39.00	39.00	6.46	7.00	163
15	好 C S	0.00	8.00	8.00	1.71	1.92	163
16	好 MiS	0.00	7.00	7.00	2.15	1.70	163
17	好 MaS	0.00	8.00	8.00	2.98	2.04	163
18	好 A S	0.00	7.00	7.00	3.16	1.75	163
19	嫌 p 赤	0.00	28.00	28.00	10.10	4.90	163
20	嫌 p 橙	0.00	12.00	12.00	2.26	2.64	163
21	嫌 p 黄	0.00	18.00	18.00	2.13	2.56	163
22	嫌 p 緑	0.00	25.00	25.00	5.27	3.70	163

23	嫌 p 青	0.00	23.00	23.00	4.71	3.74	163
24	嫌 p 紫	0.00	17.00	17.00	6.70	3.55	163
25	嫌 p 茶	0.00	14.00	14.00	3.52	2.76	163
26	嫌 p 白	0.00	15.00	15.00	1.67	2.46	163
27	嫌 p 灰	0.00	33.00	33.00	2.41	3.43	163
28	嫌 p 黒	0.00	20.00	20.00	6.18	4.47	163
29	嫌Nsyn	0.00	40.00	40.00	20.07	6.20	163
30	嫌Ssyn	0.00	30.00	30.00	14.49	6.20	163
31	嫌Isyn	2.00	40.00	38.00	16.67	6.18	163
32	嫌Asyn	0.00	37.00	37.00	10.26	5.88	163
33	嫌 C S	0.00	8.00	8.00	2.91	1.85	163
34	嫌 MiS	0.00	8.00	8.00	2.84	1.67	163
35	嫌 MaS	0.00	7.00	7.00	2.27	1.72	163
36	嫌 A S	0.00	7.00	7.00	1.98	1.61	163

[B・女]

		最小値	最大値	範囲	平均	標準偏差	ケース
1	好 p 赤	0.00	25.00	25.00	7.13	4.78	277
2	好 p 橙	0.00	17.00	17.00	4.44	3.82	277
3	好 p 黄	0.00	18.00	18.00	4.16	3.29	277
4	好 p 緑	0.00	28.00	28.00	9.86	5.95	277
5	好 p 青	0.00	31.00	31.00	10.31	5.54	277
6	好 p 紫	0.00	18.00	18.00	2.80	3.13	277
7	好 p 茶	0.00	16.00	16.00	1.70	2.82	277
8	好 p 白	0.00	44.00	44.00	2.21	4.05	277
9	好 p 灰	0.00	9.00	9.00	1.00	1.80	277
10	好 p 黒	0.00	13.00	13.00	1.49	2.72	277
11	好Nsyn	6.00	45.00	39.00	27.30	6.41	277
12	好Ssyn	0.00	33.00	33.00	15.73	6.66	277
13	好Isyn	0.00	44.00	44.00	22.96	7.25	277
14	好Asyn	0.00	45.00	45.00	4.70	5.39	277
15	好 C S	0.00	8.00	8.00	1.55	2.05	277
16	好 MiS	0.00	7.00	7.00	2.25	1.53	277
17	好 MaS	0.00	8.00	8.00	2.95	1.76	277
18	好 A S	0.00	7.00	7.00	3.23	1.76	277
19	嫌 p 赤	0.00	31.00	31.00	8.73	4.50	277
20	嫌 p 橙	0.00	15.00	15.00	2.84	2.83	277
21	嫌 p 黄	0.00	19.00	19.00	2.28	2.90	277
22	嫌 p 緑	0.00	24.00	24.00	6.29	3.70	277
23	嫌 p 青	0.00	16.00	16.00	4.37	3.12	277
24	嫌 p 紫	0.00	21.00	21.00	6.47	3.75	277
25	嫌 p 茶	0.00	23.00	23.00	4.85	3.36	277
26	嫌 p 白	0.00	11.00	11.00	0.99	1.76	277
27	嫌 p 灰	0.00	16.00	16.00	2.44	2.78	277
28	嫌 p 黒	0.00	26.00	26.00	5.72	4.29	277
29	嫌Nsyn	2.00	35.00	33.00	19.38	5.86	277
30	嫌Ssyn	0.00	45.00	45.00	13.85	5.49	277
31	嫌Isyn	2.00	37.00	37.00	17.12	5.71	277
32	嫌Asyn	0.00	31.00	31.00	9.15	5.69	277
33	嫌 C S	0.00	10.00	10.00	3.30	2.21	277
34	嫌 MiS	0.00	8.00	8.00	2.65	1.39	277
35	嫌 MaS	0.00	8.00	8.00	2.12	1.60	277
36	嫌 A S	0.00	7.00	7.00	1.92	1.59	277

付表2 CPT-YG 相關表

	D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S
好 p 赤	0.02	0.03	-0.01	-0.02	0.04	0.04	0.06	0.10*	0.04	-0.03	0.04	0.03
好 p 橙	-0.02	-0.03	0.04	-0.01	-0.03	-0.01	-0.05	-0.01	-0.05	0.02	-0.08	-0.02
好 p 黄	-0.05	-0.09	-0.05	-0.01	-0.08	0.02	-0.02	0.04	0.02	0.02	-0.02	-0.01
好 p 綠	-0.03	-0.15**	-0.02	-0.01	-0.00	-0.04	0.00	-0.01	-0.04	0.01	-0.04	-0.01
好 p 青	-0.10*	-0.01	0.00	-0.06	-0.02	-0.13**	-0.04	0.04	0.03	0.05	0.05	0.00
好 p 紫	0.01	0.04	0.00	0.07	0.01	0.03	0.03	-0.09*	-0.07	0.01	-0.02	-0.02
好 p 茶	0.12*	0.04	0.07	0.02	0.04	-0.03	-0.03	-0.16**	-0.07	-0.01	-0.11*	-0.06
好 p 白	-0.04	0.08	0.01	-0.02	-0.03	-0.06	-0.06	0.01	0.06	0.01	0.00	0.03
好 p 灰	0.04	0.04	-0.06	-0.01	0.02	0.04	0.05	-0.01	-0.03	0.02	-0.02	-0.00
好 p 黑	0.12**	-0.04	-0.03	0.05	-0.00	0.10*	0.04	-0.01	-0.11*	-0.10*	0.02	-0.01
好 Nsyn	-0.09	-0.08	-0.06	-0.08	0.00	-0.10*	0.04	0.10*	0.03	0.04	0.06	-0.01
好 Ssyn	-0.01	-0.01	0.00	-0.03	-0.02	0.05	0.01	0.09	0.05	0.00	-0.00	0.02
好 Isyn	-0.10*	-0.10*	-0.04	-0.03	-0.01	-0.11*	0.01	0.00	-0.03	0.04	0.02	-0.03
好 Asyn	0.06	0.11*	0.02	0.04	0.02	0.07	0.00	-0.01	-0.02	-0.07	0.01	0.00
嫌 p 赤	-0.02	-0.01	-0.02	-0.04	-0.01	-0.06	-0.08	0.07	-0.07	-0.04	0.01	0.02
嫌 p 橙	0.02	-0.06	-0.05	0.04	0.00	-0.01	0.02	-0.04	-0.09	-0.04	-0.02	0.02
嫌 p 黄	0.04	0.01	-0.05	0.02	0.05	-0.04	0.02	-0.05	0.02	0.00	-0.01	0.00
嫌 p 綠	0.04	-0.02	0.01	0.00	-0.06	0.04	-0.01	-0.03	0.00	-0.02	-0.01	-0.03
嫌 p 青	0.03	-0.08	0.04	-0.05	0.00	0.03	0.01	-0.02	0.01	-0.01	-0.02	0.02
嫌 p 紫	-0.06	-0.04	-0.01	-0.06	-0.06	-0.12*	-0.07	0.01	-0.05	0.07	-0.01	-0.01
嫌 p 茶	-0.12*	-0.05	0.02	-0.04	-0.07	-0.00	-0.02	0.05	-0.03	0.07	-0.06	-0.03
嫌 p 白	0.03	-0.01	0.09	0.06	0.07	0.05	0.01	-0.04	-0.05	0.03	-0.02	-0.03
嫌 p 灰	0.03	0.04	0.06	0.03	0.04	0.05	0.09	-0.03	0.06	-0.00	-0.05	-0.05
嫌 p 黑	-0.00	0.03	-0.01	-0.01	-0.02	-0.06	-0.01	-0.02	0.05	0.02	0.03	0.05
嫌 Nsyn	0.06	-0.02	-0.00	-0.03	-0.03	0.04	-0.05	0.02	-0.05	-0.07	-0.01	0.00
嫌 Ssyn	0.01	-0.05	-0.06	0.00	0.02	-0.06	-0.04	0.01	-0.09	-0.06	0.00	0.02
嫌 Isyn	0.02	-0.07	-0.01	-0.05	-0.06	-0.02	-0.03	0.00	-0.02	0.01	-0.00	0.01
嫌 Asyn	0.05	0.08	0.05	0.07	0.05	0.02	0.07	-0.06	0.05	-0.01	0.00	0.00

(有意水準 * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$)